新鋭自動車ポンプ配置
消防活動に偉力

本部機動力の強化を計画してゐた消防団本部に昨年十二月四日、新鋭の消防ポンプ自動車が配置された。

ポンプは日本造機株式会社の製造になるもので車種はニッサン自動車である。

機種については予ねて団本部で各種ポンプの性能を調査し日本の優秀メーカーである日本造機を選定し旧臘十二月四日到着引渡しがなされたものである。

一一五馬力、ソフト吸管、トランヂスタースピーカー等を備えた最新の精鋭である。購入価格一五九万円。

消防団本部は新鋭ポンプの配置によりその全機能を発揮すべくこの程地元の橋場第一分団より係員一〇名を選任し訓練を行ひ非常時に備えて居る。

さきに日吉地区新井分団に同種の自動車ポンプ白浜地区に巳に三輪車ポンプがあり町の消防力が一段と強化された次第である。

不測の火災に対しては機動力の活動によりその損害を最少に防ぐと共に、尚町民各位が注意に注意を重ね火事は消すより出さぬ様、未然の防止を心掛け今年こそ火事のない光町の実現を年の初めより呉々も心掛けられる様望むものである。

民生委員きまる

去る十一月二十八日開催の推薦委員会の結果左の諸氏が民生委員に推薦され十二月一日発令された。

記

平山　秀樹
増島　利一
土屋　正明
○布施　喜一
布施　要
○岩沢治太郎
佐久間安治
飯田伊之助
○向後　忠一
○石川　栄治

○橋浦　照寛
○大木　村治
○伊藤　茂
椎名千代寿
伊藤　光雄
○伊藤　喜一
伊藤　八郎
○伊藤　真一
○小林　喜雄
市原　進

（○印再任）

砂にえがく

えん〱とひろがる砂浜と緑の帯、限りない海原。私たちの九十九里ほど美しく雄大な海岸は世界にも稀れである。瀬戸内海の美しさが女性美ならこの浜の景観は正に逞しい男性美である。栗山川に漁港ができて出船入船に賑う町が生れ海岸ホテルや海浜学校が建ち、ヘルスセンターがつくられる、ホテルの食堂にほ名物のヘトントンなますやモツ鍋が並んで灘ならぬ篠緑の美酒が運ばれてくる。「片瀬や千葉の海岸は人影もまばらだが光ビーチはいつも満員」「町税はとらないそうだ」こんな噂が電波にのって砂一升金一升の海岸地帯がやがて誕生するという。「なんと夢みたいな話だね」「当り前だよ今年は鼠年」。

手帳とお菓子

町の社会教育の大きな行事の一つとして成人式が行はれる。此れは毎年一月十五日満二十才に達した人々を一堂に集め大人になった事を自覚し、みづから生き抜こうとする青年を祝いはげます行事である。此の下準備として過日社教幹事会で行事内容について論じ合った。

毎年成人者に手渡される成人手帳。手帳の中は全く青年の為になる記事が数多く記されてゐる。

しかしどの位の人が贈られた手帳を読むかと疑問を投げかけた。成人は少くとも三分の一の青年は読むと云い、又或人は手帳はオーバーのポケットに秘蔵されたままだと云ふ。中には手帳より贈られた菓子の方が有難く感じるのではないかと……、

成人式を迎える青年諸君、真心こめて贈られた成人手帳を良く読んで呉れ、漫画や笑話は無いけれど人生の幸福となる道標があるからだ。

我々は次代の町を担ふ青年を期待するが故に老婆心ながら、かくも考えかくも要望したい。

我々は全部の青年が読む事を信じたい。

連載

新町建設を語る

（一）

一　新町建設とは

A　新町という意味はどんなことですか。

B　昭和二十八年町村合併促進法が公布され、それぞれの町村はこの法律の目的に添うべく二以上の町村区域の全部若しくは一部をもって町村を置き、新町村建設計画を樹て、その実施に当って来ました。

ところが昭和三十一年新市町村建設促進法が公布されこの法律で従前の合併町村が新しい建設計画を樹て直し、新市町村の健全な発展を図り地方自治の本旨の充分な実現に資するよう努める町ということであります

A　では合併当時建設計画を樹て実施して来たものをなぜ更めて建設計画を樹て直す必要があるのですか

B　御承知の通り合併当時の建設計画は旧村各々が持ち寄った案を中心とし検討したのでありますが、期間も少く充分審議する事が出来なかったため、必ずしも適切な計画とは云い得ない点もありますので今回産業、文化経済、その他凡ゆる面から科学的に検討を加え、真に町の実情に即した計画を樹立し町民の総べてが幸福にして健康な毎日を送れるよう地方自治本来の目的を達成するためであります。

二　本町の現況は

A　本町の新町建設計画はどのように進められておりますか。

B　私達の町は本年度新町建設計画の指定を受けました。そして先ず第一の事実として町全域に有線放送電話の架設を計画し、町民多数の御賛成を得て実施に入りました事は、御承知通のりであります。

第二の大きな事業としては中学校統合の問題でありますが、これも教育委員会を中心として部落座談会を開き、広く町民の御意見を聞き、計画樹立の参考とし、最も理想的な然も教育効果百パーセントの学校建設が出来るよう関係機関は勿論町民各位の御協力をお願いします。

前に申し述べた通り建設計画の中に今後の事業は盛られる事となるのであります。従って只今建設計画策定事務も着々と進められておるのであります。

（続く）

町営住宅入居者選考終る

この程新築になった宮川、橋場、桑郷各団地住宅の入居申込者は応募者多数の中から左のとおり選考された。

第一種
高橋　俊夫　　土屋　稔治
大木　文雄　　島田　治代
布施　精一　　掛川　竹好
渋野　忠雄　　宮間　進
稗田芙路夫　　星野　宏明

第二種
椎名　隆　　越川　利弘
伊藤　や寿　　川島　三郎
鈴木　中　　菅原　功男
越川　清人　　鈴木　具視
大木偉太郎　　土屋　四郎
伊藤　良一

光町広報発刊四週年を迎えて

編輯委員長　光町助役　**鈴木　実**

光町の皆さん新年御目出度う御座います。旧年中は種々御指導御支援賜りまして誠にありがたく厚く御礼申し上ます。本年も皆さんと共によりよき歳を迎いたいと願う次第です。当光町も合併以来議会議員各位並に町各種団体代表の御支援を賜り遂年ごとに改善されつつ町政も運営されている状況です。特に光町としては各種事業が計画立案され新町建設、新農山漁村振興対策、学校整備、伝染病棟建設計画等事業内容を町民の皆様に御諒承頂き、御支援御協力を願わねば出来得ない事業ばかりです。町の計画方針を御伝するにも町民全般の方に個々に逢って御承認賜ることが困難なので広報を通じて御願する次第です。広報も発刊以来四週年を迎いましたが、編集係も担当時間以外に種々研究して紙面の組み方、又如何にしたら最もよく町内の皆さんに発表出来又喜んで読んで戴けるか創意工夫を行って発刊するのですが、専門家でないため思うように出来ません。町民各位の御批判を賜り尚一層の内容充実した広報と致したい念願です私達は町の公僕である以上町民の一人一人が主人公であるので今後町政運営全般に亘り町民の希望並に意見等多数投稿して戴き又発表も願ひ町運営の指針とし正しく計画実施致したいと考えますので、今後共なに分御指導御助言賜り益々広報発展を希望する次第です。発刊四週年新年号を皆様のお手許に送るに際し愚見を述べて御挨拶といたします

新村の振興計画樹立
推進について

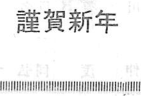
俗に云はれてゐる「新しい村づくり」の在り方については今迄に機会ある毎に説明会や広報で御知らせした通りであって、当町は明三十五年の概ね五月に地域の本指定を受け向ふ三ケ年に亘って補助と融資のある特別助成事業を実施することになってゐます。

従て本年九月予備地域の指定を受けて以来明年三月迄にすべての調査や計画等の準備行動を行う期間になってゐるので早速各関係階層の代表者を以って構成する光地域農山漁村振興協議会を結成いたし円滑な運営と事業の推進を目途にいろいろの基礎的な調査をなしいよいよこれから部落単位或は地区、町を事業主体とする振興事業計画を樹立する大切な時期を迎えたのであります。

折角協議会としては十二月に入ってから振興対策事業を中心とする地区別の説明協議会を開催し尚御要望により部落の研究座談会を開いて生産農家皆さんと共に成可利用度の高い範囲の広いそして地域に即応した事業内容の検討やら選択の研究をいたしたのであります。その結果特別助成事業の種目である土地整備事業の客土、農道用排水路等と振興共同施設の共同作業所、共同貯蔵所、共同利用農機具、共同給水施設等各項目に渉る計画の概要が協議会宛本日迄に相当数申請されました。更に目下のところ思案考慮中のところもあるやに見受けられますので事業実施の希望申請が全く出揃ふのは十二月二十日過ぎになるものと思われます。従って希望申請を基礎に振興協議会で審議決定がなされることになってゐますので、その際は緊密な連絡をとりますので諒承願います

今更云ふ迄もなく新農村の根本目的はより進歩的な農村をつくることであって現在の生産条件流通利用過程生活様式等の実態を見極めて先ず進化の遅れをとり戻すことと更に時代に目覚健実な農業経営が行われるために振興対策事業を通じて一般水準の向上がねらいであります。

要は今後の村づくりは「人づくり」と云はれてゐる通りとりわけ「共同の力」の培養が絶対に必要であって常に協力一致援護しあって本事業達成のため推進して戴くことを特に強調いたします。



謹賀新年

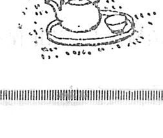
町長　深田　三郎
助役　鈴木　実
収入役　伊藤　兵司
総務課長　椎名　浩
産業課長　林　信一
税務課長　林　正二
保険課長　向後　末治
農地主事　伊藤　隆夫
東陽病院長　村上　泰邦
〃事務長　鈴木　央
教委事務局長　向後　三郎

舊跡めぐり
新善光寺について

写真　新善光寺山門
　　　仁王尊

新善光寺は真言宗智山派に属し、正しくは「殿谷山新善光寺金光明院」と称し徃古より香取四天王の一として院家常法談林所寺格が与へられておりました。古記録によると「人皇第四十代天武天皇の御代に下総の国司藤原朝臣本田善明卿の本願により朱鳥元年開基」と記されているから今より凡そ千三百年の昔と云ふことになります。この時代は丁度天武天皇の皇后の発病によりその平癒祈願の為諸国に薬師寺等寺院の建立が勅令によって行なはれたもので、当寺もその一環で建てられたものと推定出来ます。その後第八十六代四条天皇の御宇嘉禎二年怪火により焼失しましたので、時の地頭篠本卿が発願人となり叶日上人を請ひ再建の上真言宗に改宗されて今日の基が出来ました。当寺の本尊阿弥陀如来並に脇仏不動明王は共に行基菩薩の作と伝へられております。更に山門及び仁王尊は鎌倉時代の作と云はれております。ところが寛政九年山門を残して全山再び焼失してしまった為、中興開山天慧法印再住して復興し伽藍整然たる状態となりました。そして新善光寺所領地殊に地頭建起の院家である所瑳七人の内の地頭鬼沢肥前守が中興大檀那となって現在の新善光寺が出来上ったのであります。境内大概壱万三千余坪静森に囲らされ境内荒涼となっていますが、庭に大榧があります。弘法大師の御手植と云ふ伝説にふさわしく、実に穴があいて居るのは不思議に考へられ、天然記念物の価値があるとも取沙汰されています。寺録には末寺三十二ケ寺を有し現住に到るまで四十[illegible]諸脉々と記されております。

広報室の窓から



今年は子年、俗に鼠の年といふ。増える事の著しいのを鼠算式といふがそれからゆけば亦増産の年であらう。五年続きが六年続きの豊年と期待するわけである。広報の編集同人も今年こそはと張り切って期待をもってやる考えです。

有線放送の完成もま近であり広報活動も本年こそ里の隅にまで町の事情が充分理解して戴く事ができると思います

町民各位の遠慮ない御意見御希望も広報なればこそ御発表がいただける事と思います

指導され、是正しつつよりよき光町の発展の一助ともと心掛け励みたいと思います。